

これまでの検討の中間整理

平成27年6月23日

国立循環器病研究センターを核とした
医療クラスター推進協議会

(目的)

平成30年度を目途に吹田操車場跡地に移転建替する国立循環器病研究センターとその周辺地域における医療クラスターの形成の実現を目指す

(発足)

平成27年5月1日

(概要)

<構成>

国立循環器病研究センター・吹田市・摂津市・大阪府（事務局）の実務者レベルで構成

<取組内容>

- ①対象区域（4・5・7・8街区、イノベーションパーク）の有機的連携方策の検討等
- ②企業など誘致にかかる検討等
- ③特区などインセンティブにかかる事項の検討等
- ④その他関係者の連絡、調整

(スケジュール)

H27年度 第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
名称・愛称検討	○医療クラスター形成会議		
コンセプト検討			
		進捗に応じて適宜増補	
★ ★	国内展示会でのPR	★	★
	個別企業への働きかけ		
	立地インセンティブの検討		

名称

北大阪健康医療都市

Northern Osaka Health and Biomedical Innovation Town (NohBIT)

愛称

健都 (けんと)

※シンボルマーク等は現在検討中

【選定理由】

- ◆ 健康医療都市の略であり、誰にでも分かりやすくシンプル。
- ◆ 循環器病予防に必要なKnowledge（正確な知識、知の集積）、Exercise（適度な運動）、Nutrition（適切な栄養・食事）とTown（まちづくり）の頭文字を並べたもの（KENTO）。

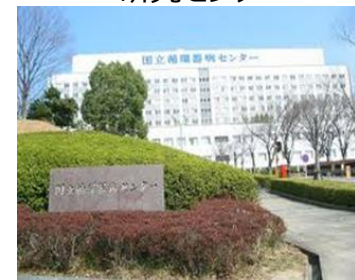


世界トップレベルの大学・研究機関及び医療機関の集積

医薬基盤・健康・栄養研究所



国立循環器病研究センター

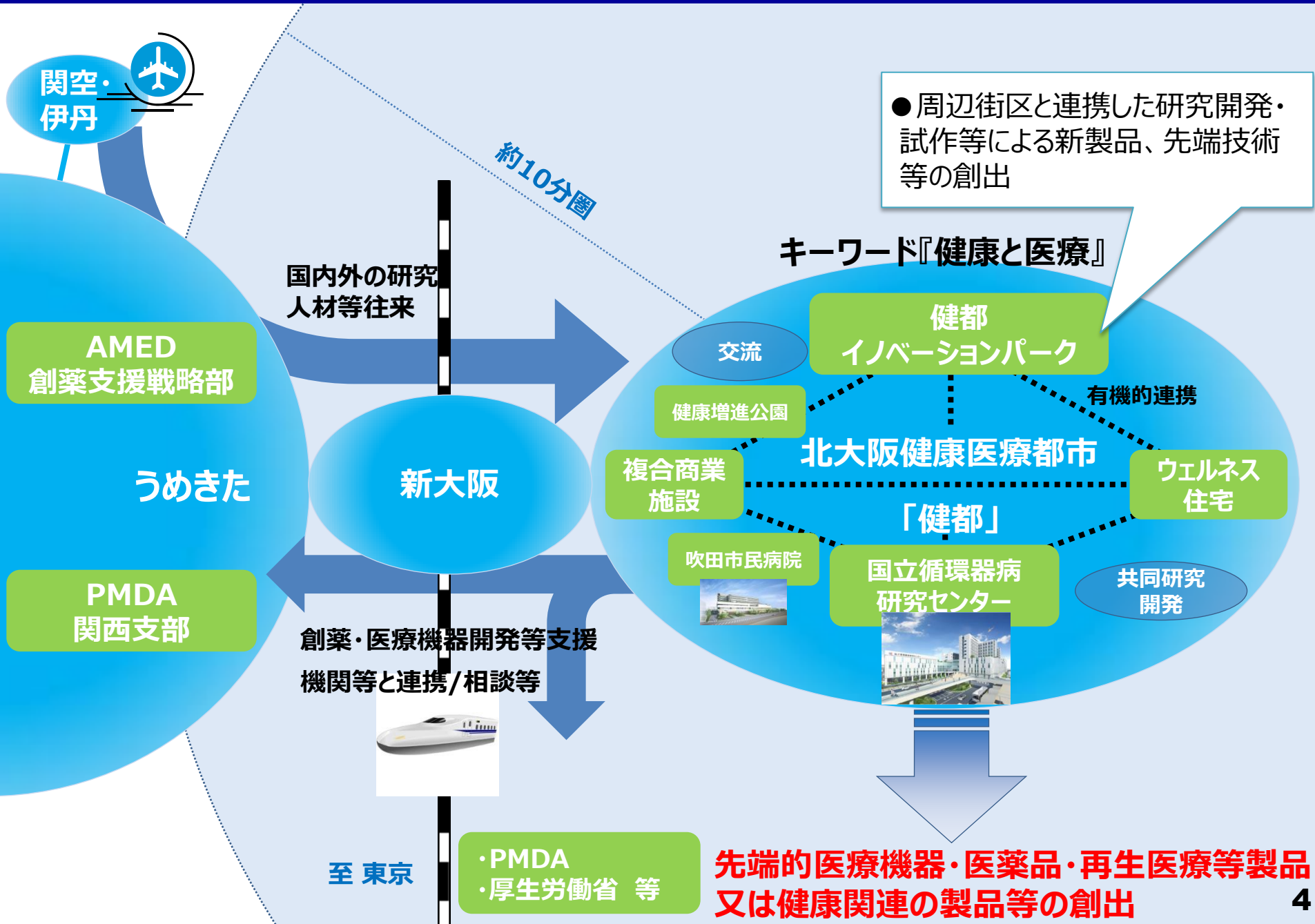


大阪大学・大阪大学医学部附属病院



道修町を中心とした製薬企業等集積

北大阪健康医療都市（健都） 概念図



「健康と医療」をキーワードに、先端的な研究開発を行う企業等の研究施設等を集積させ、北大阪健康医療都市からイノベーションを創出

視 点

▶ 大阪大学・大阪大学医学部附属病院や医薬基盤・健康・栄養研究所、国立循環器病研究センターなど世界トップレベルの大学・研究機関や医療機関が集積する「北大阪バイオクラスター」及びオール関西の健康医療産業（京都、神戸等）のさらなる発展を牽引する、新たなイノベーション拠点の形成を図る

▶ 国家戦略特区を活用した規制改革の提案・実現、国内外の研究開発人材の往来増加、国循に蓄積されたビッグデータの活用、住民参加による実証研究など、あらゆるリソースを活かし、研究開発の促進を図る

▶ AMED創薬支援戦略部やPMDA関西支部の創薬・医療機器開発等支援機能が集積するうめきた、国土軸（新大阪）に近い好立地条件を活かし、研究開発の実用化・市場化を図る

メインターゲットとなる事業分野等

以下の企業等をメインターゲットに、推進協議会として一体となって誘致活動を本格化させるとともに、立地インセンティブを検討

事業分野

- ▶ 医療機器・医薬品・再生医療等製品や、食事・運動を含む健康関連製品・サービス等の革新的な研究開発を行う企業等を中心（企業規模にかかわらず）

施設形態

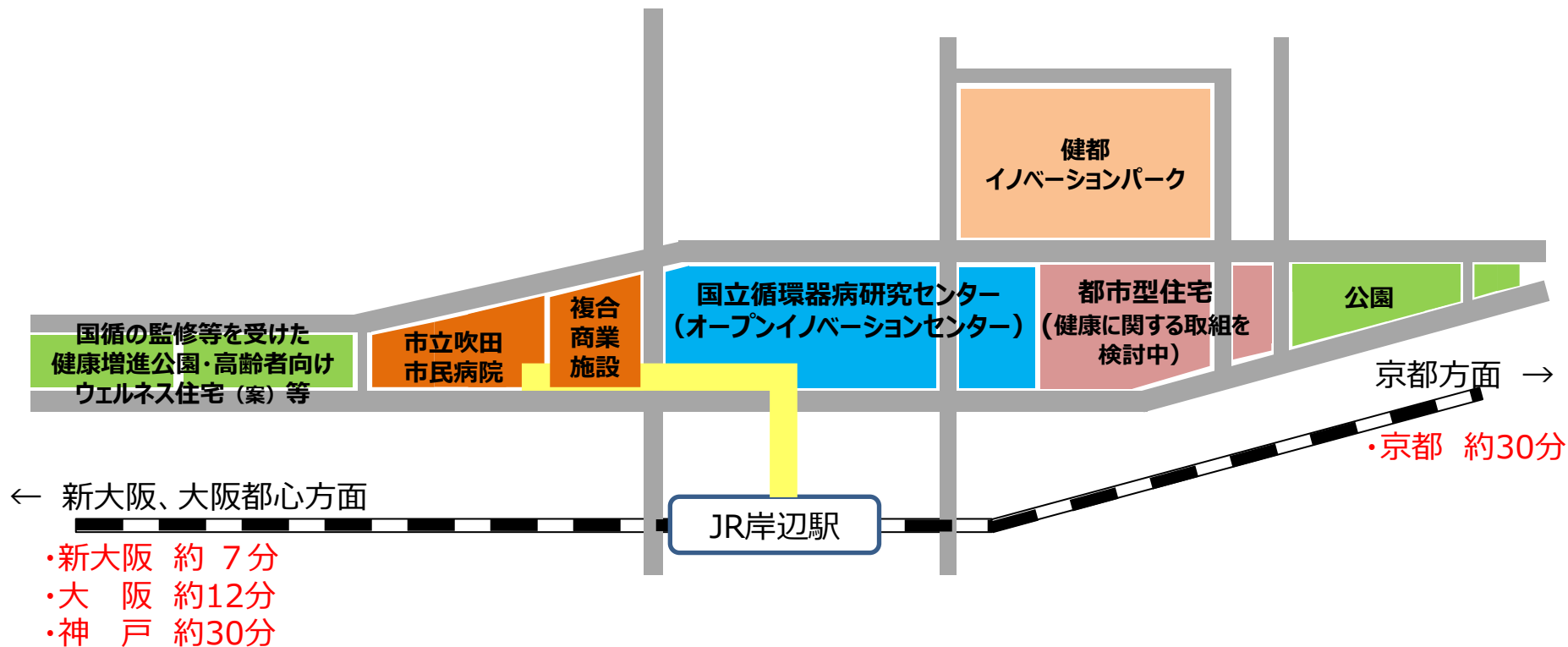
- ▶ 研究開発や試作等を行う施設を中心

想定敷地規模

- ▶ 概ね1,000㎡～5,000㎡/区画を想定（但し、進出を希望する企業等のニーズに応じて柔軟に対応）
- ▶ 他街区との連携を踏まえながら、具体的な区画割を今後検討

その他

- ▶ 企業等への賃貸施設の整備・運営を今後検討



駅周辺ゾーン完成イメージ（平成30年度）



健都イノベーションパーク

「健康と医療」をキーワードに先端的な研究開発を行う企業等の研究施設等の集積をめざす